



日式住宅(南浦洞乾物卸売市場・韓国) 2019

時が経ち、近代化の波によって
韓国の風景は一変した。
「美」にこだわり過ぎてテーマを失いかけたが、
自分にとるべき立ち位置を知るようになり
「寡黙な空間」が生まれた。

藤本巧
takumi fujimoto

韓国に移住した日本人漁民と花井善吉院長

寡黙な空間

第39回土門拳賞受賞作品展

三展同時開催

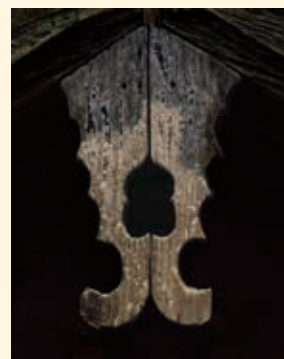
没後30年

土門拳の室生寺



室生寺弥勒堂釈迦如来坐像頭部

伝統のかたち



東寺慶賀門南妻猪目懸魚

2020年

8月28日(金)~10月11日(日)

会期中
無休

※なお、今展覧会終了後、令和2年10月12日(月)~12月末までは館内修繕のため全館休館予定です。

■開館時間/
午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

■入館料/
一般700円(550円)、高校生350円(280円)、
中学生以下無料 ()内は団体料金(20名以上)

年間券(1年間有効)随時受付、特典あり
普通年間券(3名まで入館可) 3,000円
特別年間券(10名まで入館可) 15,000円

共催：酒田市教育委員会

土門拳賞受賞作家 藤本巧氏ギャラリートーク
9月26日(土)午後2時~ **参加無料(要入館料)** **要予約**

第15回「わたしのこの一枚」写真展
9月19日(土)~10月11日(日)

被爆ピアノコンサート 10月6日(火)午後4時~ **要予約**

「開館記念日無料開放」10月1日(木)

※予約について詳細は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえて、
当館ホームページでお知らせする予定です。

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)
TEL/FAX 0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>



土門拳賞とは

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年(昭和56年)に毎日新聞社により設立された、日本でも有数の権威ある写真賞です。毎年1月から12月までの間に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が受賞の対象となり、その受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

今回の受賞作は、今も日本の地名が残る、明治以降に瀬戸内などの漁民が韓国に移住し生活した漁村を約10年かけて現地取材。そして1916年(大正5年)、日本の統治下で「救い事業」を名目に設立された旧小鹿島慈恵医院の2代目院長・花井善吉の偉業を訪ね、埋もれていた日韓交流の歴史に光を当てています。

1	2	1. 広島村跡周辺(統営・韓国)2019
	3	2. 山田港周辺 汐入川(岡山・日本)2015
	4	3. 方魚津港(蔚山・韓国)2014
		4. 日式住宅 旅館(巨文島・韓国)2015



第39回 土門拳賞受賞作品展
寡黙な空間
韓国に移住した日本人漁民と
花井善吉院長

「土門拳賞受賞のことば」

韓国と私の50年

藤本巧

takumi fujimoto



1949年島根県生まれ。独学で写真を習得。20歳から韓国の風土と人々を撮り続ける。主な写真集に「韓(から)くに風の旅」(87年、筑摩書房)、「韓(から)くに、風と人の記録」(2006年、フィルムアート社)、「私の心の中の韓国」(16年、韓国で出版)。写真展は銀座二コソサロン、イタリア、韓国国立民俗博物館などで開催。87年度 咲くやこの花賞、11年 韓国文化体育観光部長官賞受賞。

土門拳氏が日本工房時代に撮影した作品「道具としての手」「伊豆の週末」などから写真の魅力、力強さに刺激を受けた。だが、写真を撮り始めたばかりの私は、何に向かうべきかテーマが見えてこなかった。

1970年の夏、初めて韓国の地を踏んだ。ポプラ並木が続く田舎道。車から降りると、薫草の美しい村りが広がり土の香りがした。桃源郷がそこにあった。突然の来訪者に、村人たちは親近感をもって迎えてくれた。構図を考える前に被写体に向かって突進していた。無我夢中だった。現像しなくても今までと異なった映像が、フィルムに宿ったことを実感した。それから半世紀も経つが、そのときの感触は未だあせない。私を韓国に引き寄せる原点となった。

時が経ち、近代化の波によって韓国の風景は一変した。「美」にこだわり過ぎてテーマを失いかけたが、自分がとるべき立ち位置を知るようになり「寡黙な空間」

が生まれた。

日本が朝鮮半島を統治していた痕跡を取材していて、旧小鹿島慈恵医院(ハンセン病療養所)「花井善吉院長」のことを知った。日本式の生活様式を押しつけるのではなく、韓国人の民族性を尊重して患者たちに誠をもって接したことを、写真を通して語りたい。日韓関係をほぐす鍵が、そこにあったと思ったからである。

私は東洋館完成(大原美術館)のお披露目で、土門拳氏にお会いした。車椅子で撮影を再開されたところだった。チェックのベレー帽から覗く眼光は鋭く、写真家の「気力」が漂っていた。

このたびの栄誉ある「土門拳賞」。甘えず、これからの励みにしたい。

実際の撮影に至るまで、土門は長い長い時間をかけたといえます。自分の好きなモノにこだわり、モノに感動し、モノを凝視する。そうすることで見る側に迫ってくる作品の数々が生まれたのです。日本人がつくりあげてきた「伝統のかたち」工芸品ややきものなど、土門の美意識にふれ撮影された作品をご覧ください。

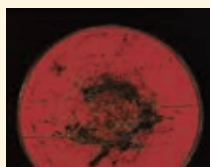
伝統のかたち 土門拳の室生寺

生涯で幾度となく通った奈良の室生寺は、土門の心のふるさとして。土門の写真家人生は「室生寺にはじまり室生寺に終わる」といわれるほど、春夏秋冬、室生寺のさまざまな姿をフィルムにおさめています。

モノクロの大型パネルで、室生寺の荘厳な世界をお楽しみいただけます。



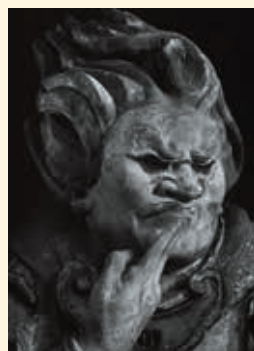
「かまわぬ」のれん



東大寺お水取り 日の丸盆



桂離宮新御殿の間 桂棚



室生寺金堂十二神將立像(丑神)頭部



室生寺金堂薬師如来立像(伝釈迦如来像)

土門拳記念館展示情報 2020

2020年8月28日(金)～10月11日(日)

＊＊10月1日(木) 開館記念日無料開放＊＊＊

主要展示室

土門拳の室生寺

モノクロ 57点

生涯で幾度となく通った奈良の室生寺は、土門の心のふるさとでした。土門の写真家人生は「室生寺にはじまり室生寺に終わる」といわれるほど、春夏秋冬、室生寺のさまざまな姿をフィルムにおさめています。モノクロの大型パネルで、室生寺の荘厳な世界をお楽しみいただけます。

企画展示室Ⅰ

第39回土門拳賞受賞作品展

藤本巧「寡黙な空間 韓国に移住した日本人漁民と花井善吉院長」

モノクロ 50点

藤本巧氏は、50年にわたり韓国各地を巡りながら、日本と韓国の人的交流の歴史を農村、漁村、都市の風景に見出し撮り続けてきました。今回の受賞作は、今も日本の地名が残る、明治以降に瀬戸内などの漁民が韓国に移住し生活した漁村を約10年かけて現地取材。そして1916年（大正5年）、日本の統治下で「救らい事業」を名目に設立された旧小鹿島慈恵医院の2代目院長・花井善吉の偉業を訪ね、埋もれていた日韓交流の歴史に光を当てています。

企画展示室Ⅱ

伝統のかたち

カラー 28点

実際の撮影に至るまで、土門は長い長い時間をかけたといいます。自分の好きなモノにこだわり、モノに感動し、モノを凝視する。そうすることで見る側に迫ってくる作品の数々が生まれたのです。日本人がつくりあげてきた「伝統のかたち」工芸品ややきものなど、土門の美意識にふれ撮影された作品をご覧ください。

イベント

第15回「わたしのこの一枚」写真展 9月19日(土)～10月11日(日)

土門拳賞受賞作家 藤本巧氏ギャラリートーク＜要予約＞ 9月26日(土) 午後2時～

被爆ピアノコンサート＜要予約＞ 10月6日(火) 午後4時～

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地（飯森山公園内）

TEL/FAX：0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>